



ウーズラ・ゲート:ロビイストによる妥協 ペーパーバック

2024年11月20日

フレデリク・バルダン (著者)

2023年4月5日 ロビイストのフレデリク・バルダンが、リエージュのフレデリク・フレネー判事に刑事告発を行った。これは欧州委員会のウーズラ・フォン・デア・ライエン委員長に対するものであり、前例のないものである。その罪状とは？ 汚職、違法な利権獲得、行政文書の破棄、肩書きや職務の篡奪。問題となっているのは、委員長とファイザーCEOのアルバート・ブーラ氏との間で交わされたテキストメッセージによる秘密交渉で、透明性確保の権利と、ファイザー社に大盤振る舞いされた351億ユーロが争点となった。(SMSゲート/ファイザーゲート)

フレデリクが行動規範に違反したとして委員たちに停職処分を求めたのに対し、結局、フレデリクのロビイスト認定を取り消したのはフォン・デア・ライエン委員会だった。これは明らかに報復措置であり、内部告発者を保護するEU指令に反している。

なぜフォン・デア・ライエン委員会は頑なにこれらの契約を公開しようとししないのか？ COVID危機の背後にいる主なロビイストは誰なのか？ 彼らはどのようにして組織に浸透しているのか？ 彼らの狙いは何か？ ウーズラ・フォン・デア・ライエンはどのように妥協したのか？ この危機の間、私たちの健康データと基本的権利はどうなったのか？

フレデリク・バルダンは本書の中で、これらの疑問に答え、私たちが情報にアクセスし、私たちの生活をコントロールする手段を取り戻すことができるよう、ロビイ業界の秘密を暴露している。著者自身の言葉を借りれば、本書は司法警察が独自に特定できなかった要素を浮き彫りにしている。特に、湾岸戦争を「売り込んだ」大手ロビイング会社が、ファイザー社から科学的根拠を詐称するよう依頼されていたことを明らかにしている。



@BaldanFrederic

著者:フレデリク・バルダン

ウーズラ・フォン・デア・ライエンに対する刑事訴訟の第一原告であるフレデリクは、元欧州ロビイスト、基本的人権活動家、作家である。

フレデリクの訴訟は、30カ国以上で150以上のメディアに取り上げられ、EU加盟国、当事者、船員、重篤な副作用で子供を失った親など、公式・非公式を問わず、ヨーロッパ全土から約3,000人の被害者が集まった。その行動は、EUにおいて歴史的かつ前例のないものであると認識されている。

製品情報



384頁



フランス語
(他の言語も今後対応予定)



2024年11月20日



24,90 ユーロ



Éditions Droits
& Libertés
(CEBiz SA)



A5
14,8 x 21 x 2,1
515g



ISBN
978-2-9603653-0-6
EAN13:
9782960365306